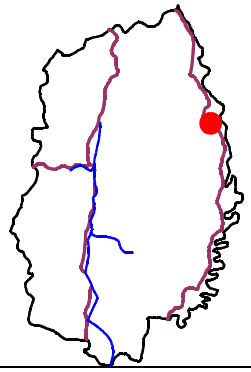
事業名　田野畑村特定環境保全公共下水道（補助：事業主体　田野畑村（たのはたむら））
（岩手県下閉伊郡（しもへいぐん）田野畑村（たのはたむら））

事業着手：平成１１年度　　**完成・供用の目標年度：平成１９年度供用予定**

事業の必要性・事業の概要

岩手県



「事業の必要性」

下水道事業は、生活環境、公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全等に資するための事業ですが、東北地方における処理人口普及率は55.2%（平成１７年度末）と全国平均（69.3%）を大きく下回っています。

特に人口5万人未満の市町村の普及率は41.1%と低く、未だ下水道を使用していない町村もあるため、早期供用開始に向け効率的・効果的な整備促進が必要となっています。

処理人口普及率(平成17年度末)

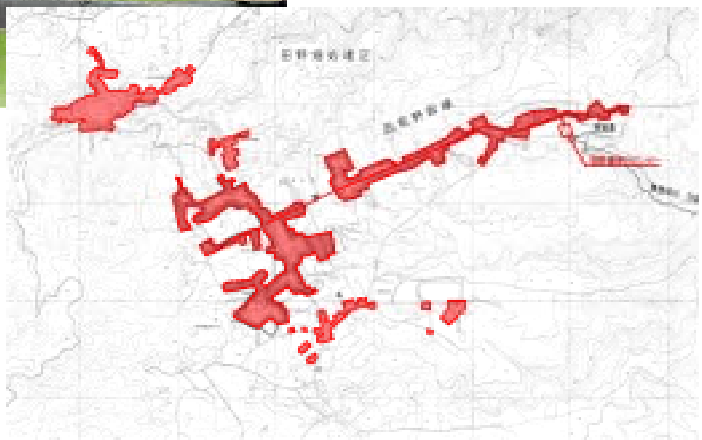
県名	処理人口（万人）	普及率
青森県	71	48.7%
岩手県	64	46.2%
宮城県	171	73.1%
秋田県	59	50.9%
山形県	78	64.4%
福島県	90	42.6%
東北合計	533	55.2%
全国合計	8,802	69.3%

「事業の概要」

田野畑村特定環境保全公共下水道は、事業計画人口は1，０００人、事業計画面積は４５haの事業となっており、汚水処理の普及促進を図ります。



＜（仮称）田野畑浄化センターイメージ＞



＜田野畑下水道処理区域平面図＞

平成１９年度の予定

○平成１９年度供用にむけ、管渠や処理場の整備促進を図ります。

事　業　効　果

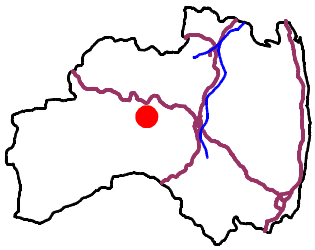
○新たに下水道を使用できる人口が増加し、生活環境の向上や公共用水域の水質改善が図られます。

事業名	猪苗代町公共下水道他　(補助:事業主体　猪苗代町他) (福島県耶麻郡猪苗代町)

事業着手 ： 平成14年度	完成・供用の目標年度:平成18年度完成予定(高度処理施設整備)

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

下水道事業は、生活環境、公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全等に資するための事業です。

東北地方は、山や海、川、湖等自然に恵まれた地域です。福島県にある猪苗代湖や裏磐梯の湖や沼は、県のシンボルでもあり、同時に貴重な水や観光資源となっています。現在、下水道整備の整備を図っておりますが湖沼等へ生活排水が流入しています。一度水質悪化が起これば回復が難しいとされています。そこで、通常の下水処理に加え、水質悪化の原因であるチッ素、リンを取り除く高度処理施設を整備してきています。

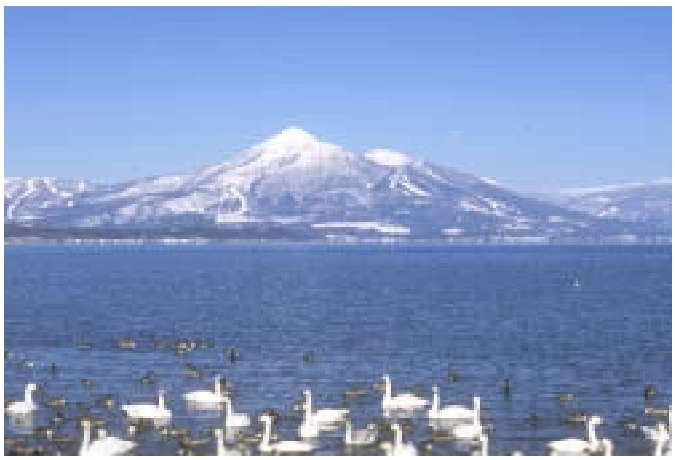
「事業の概要」

湖沼水質高度処理施設整備事業として、平成14年度から着手、平成18年度で高度処理施設整備が終了、平成19年度以降は、引き続き面整備(管渠等)を実施します。



猪苗代湖と磐梯山





冬の猪苗代湖



中ノ沢浄化センター(猪苗代町)

平成19年度の予定

○平成18年度処理場の高度処理が事業完了予定であり、平成19年度は引き続き各処理区内の面整備(管渠等)の促進を図ります。

事　業　効　果

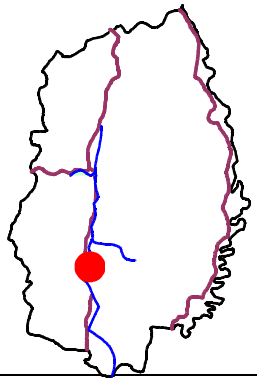
○湖沼等の閉鎖された公共用水域の水質改善が図られます。

事業名	都市計画道路　毛越寺線（補助：事業主体　岩手県） （岩手県平泉町）

事業着手：平成元年度	完成・供用の目標年度：平成１９年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

岩手県



「事業の必要性」

当該路線は、ＪＲ平泉駅と奥州藤原文化を象徴する遺跡でもある毛越寺を結ぶ幹線道路です。当該地区は、通年にわたり観光客で賑わっているとともに小中学校等文教施設が隣接しており、安心して通行できる歩行者空間の確保が必要とされています。

「事業の概要」

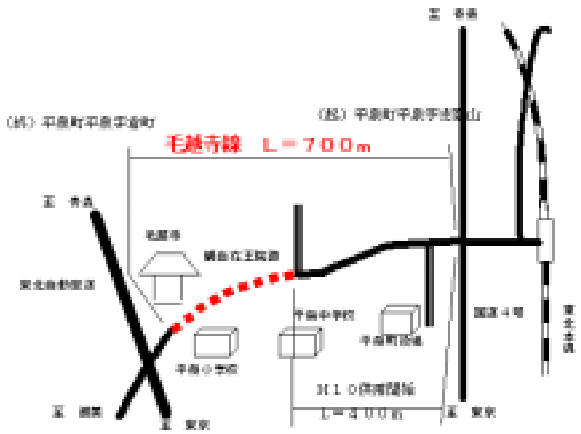
本事業は、国道４号から毛越寺までを結ぶ全長700m（２車線）の街路事業です。当該地区周辺は、世界文化遺産登録にむけ順次環境整備が進められており、当該路線も古都のイメージを残しながら周辺環境に配慮した街路整備を進めています。



＜完成予想図：遠景＞



＜完成予想図：近景＞



＜概略図＞



＜毛越寺大路の喧騒イメージ＞

平成１９年度の予定

○平成１９年度は、舗装工事等を実施し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

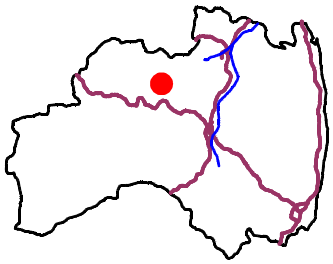
○通学児童、観光客等の歩行者に対し、安全で快適な歩行空間の提供が可能となります。
○魅力的で活力のある市街地の活性化を支援します。

事業名	都市公園整備事業　亀ヶ城公園（補助：事業主体　猪苗代町） （福島県猪苗代町）

事業着手：平成９年度	完成・供用の目標年度：平成２０年度概成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

猪苗代町は磐梯山や猪苗代湖に代表されるすばらしい自然環境を有し、「猪苗代町の町民憲章」が求める「住みよい町」「美しい豊かな町」「歴史を尊重し文化を育てる町」の実現のため、地域住民の交流拠点となりうる「スポーツ・レクリエーション、自然・歴史・文化体験学習の場」等を形成する公園整備が必要とされています。

「事業の概要」

本公園は、町の中心市街地西部に位置し、スポーツ・レクリエーションの拠点として既に整備されている総合体育館に接続して、自然・歴史・文化を体験する拠点となる「体験学習施設」の整備を行います。

なお、体験学習施設は平成２１年２月に開催される「フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会」のメイン会場としても位置付けられています。フリースタイルスキー世界選手権は、オリンピックに次ぐ規模と権威を持つ２年に一度開催される世界大会で、日本で開催されるのは１９９７年の長野大会以来２度目となります。

全体整備計画図



平成１９年度の予定

○平成１９年度は、「体験学習施設」の整備に着手し、平成２０年１０月の完成を目指します。
○体験学習施設周辺の駐車場、せせらぎ広場等の整備を行います。
【公園全体面積：１７.３ｈａ ，　平成２０年度末供用予定面積：１２.１ｈａ】

事　業　効　果

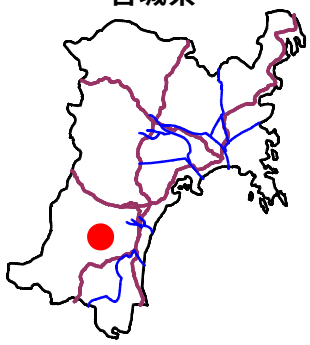
○自然・歴史・文化の体験学習活動が可能となり、新たな地域交流拠点を形成します。
○平成２１年２月に開催される「フリースタイルスキー世界選手権」のメイン会場として利用するとともに、平成２１年以降は、インターハイ等全国の主要大会のメイン会場として利用することとしています。

事業名	国営みちのく杜の湖畔公園整備事業（II期地区草原エリア（直轄）） （宮城県柴田郡川崎町）

事業着手：平成16年度	完成・供用の目標年度：平成19年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

宮城県



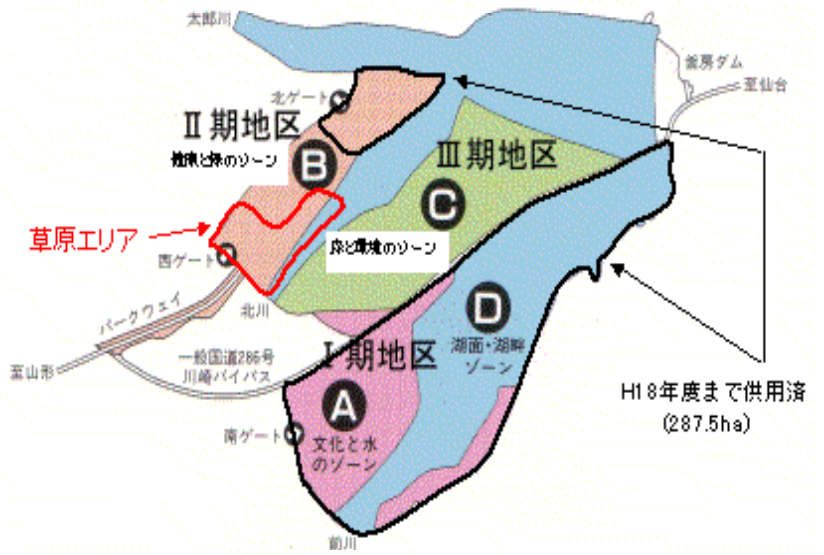
「事業の必要性」

本公園は宮城県柴田郡川崎町に位置する東北地方で唯一の国営公園です。平成17年度の来園者数は過去最高の62.3万人を記録しましたが、現在の来園者の年齢構成は20～30歳代が中心であり、今後中高齢層の利用促進を図っていく観点から、広大な自然環境の中で多様な層の利用者が、健康づくりや体験活動を行うことができる草原エリアの整備を推進し、平成19年度の完成を目指します。

「事業の概要」

健康づくりのための多様なレクリエーション活動（ドッグラン、グランドゴルフ、散策等）が行える草原、水辺の良好な景観を生かした自然体験やボート・カヌー利用の拠点となる河畔広場、身障者スポーツ等が行える多目的グラウンド等からなる草原エリアの整備を実施します。

＜国営みちのく杜の湖畔公園概要図＞



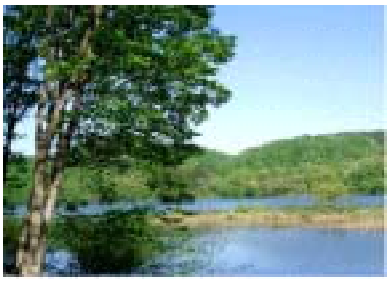
＜草原エリアの利活用イメージ＞



▲ドッグラン



▲グラウンドゴルフ



自然体験



カヌー体験



身障者スポーツ

平成19年度の予定

○平成19年度は、園路広場や休憩所等の整備を実施し、草原エリアの完成を目指します。

事　業　効　果

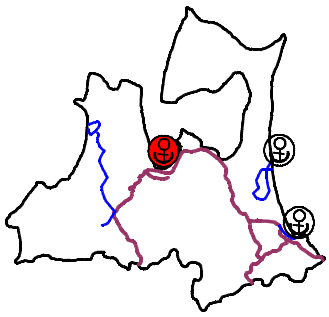
○自然を生かした様々なレクリエーション活動が体験できる場が形成されるとともに、観光振興・地域間の交流・連携等の場として地域活性化に貢献します。

事業名	青森港本港地区橋梁改良事業　（補助：実施主体　青森県） （青森県青森市）

事業着手：平成１４年度	完成・供用の目標年度：平成２５年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



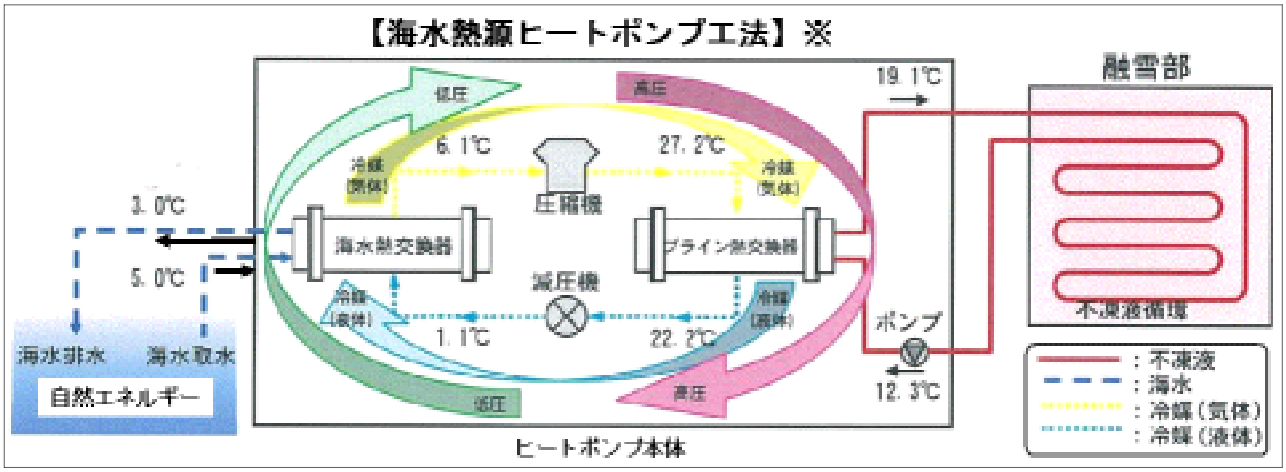
「事業の必要性」

青森市は、全国の県庁所在地の中で唯一、国の特別豪雪地帯に指定される国内外でも有数の豪雪都市であり、冬期間における交通の安全確保が求められています。青森ベイブリッジは、海に面しており路面が凍結し易いため、冬期のスリップ事故防止対策が求められています。

「事業の概要」

本事業はエネルギー資源を効率的に活用し、冬期間のスリップ事故を減少させるため、青森ベイブリッジに海水熱を利用した消融雪施設（L=1，７２１m）を整備し、地球に優しいクリーンエネルギーの活用を推進しています。





※冬期間外気よりも暖かい海水熱を活用し、融雪する仕組みである。これまでの海水散水による消雪対策では、塩害が問題となっていたが、同システムは、取水した海水の熱だけを回収しその熱で温めた不凍液をパイプに通して融雪する。海水は再び海へ戻すため塩害は発生しない上、エネルギー効率が電気熱を利用した融雪より3～5倍も高いクリーンエネルギーである。

平成１９年度の予定

○平成１９年度は、本町方面（下り）の供用を目指します。

事　業　効　果

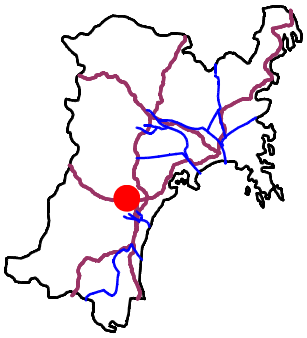
○自然エネルギーを有効活用する事により、経済的に消融雪を行うことが出来ます。
○路面凍結防止により、スリップ事故が解消されます。
　なお、一部供用している沖館方面では、毎年のように発生していた事故が解消されています。

美しい東北の実現　**循環型社会の構築**

事業名	合流式下水道緊急改善事業　（補助：事業主体　仙台市他） （宮城県仙台市他１１市）
事業着手：平成１６年度（仙台市）	完成・供用の目標年度：平成２０年度完成予定（仙台市）

事業の必要性・事業の概要

宮城県



「事業の必要性」

合流式下水道では、大雨時において未処理の汚水が雨水とともに公共用水域に排出され、水質汚濁や悪臭の発生、公衆衛生上の観点から大きな問題となっており、合流式下水道の改善対策を緊急的に実施することが必要となっております。

「事業の概要」

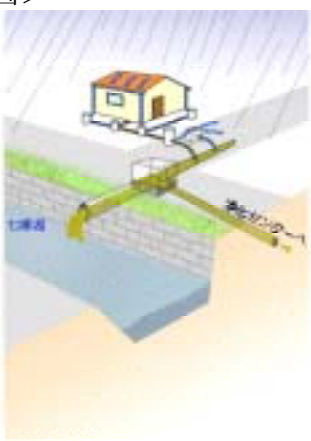
大雨時の越流水による夾雑物（汚水の中に混入しているゴミ等）・水質改善対策として、雨水吐にスクリーンを設置したり、越流水量の抑制対策として雨水滞水池・雨水貯留管・雨水浸透桝などを整備します。

〔東北における実施市名〕
青森県（弘前市、八戸市）、岩手県（盛岡市、釜石市）、宮城県（仙台市）、秋田県（秋田市、能代市）、山形県（酒田市）、 福島県（福島市、郡山市、いわき市、南相馬市）

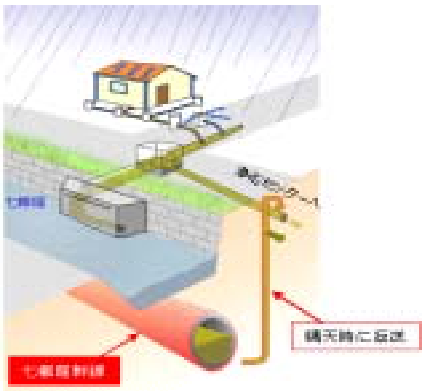
＜仙台市七号堀イメージ図＞



（雨天時流出状況）



七郷堀幹線は，七郷堀の真下に大きな下水管をつくり，雨天時に七郷堀に流れる下水を貯留するものです。降雨初期の高濃度下水が流れ出なくなり，七郷堀の環境を改善します。貯留した下水は晴天時に浄化センターへ返送し，処理します。



古くから下水道が整備された仙台市中心部では，汚水と雨水を一つの管で流す合流式下水道が採用されています。合流式下水道では，雨天時に浄化センターに送りきれない下水が七郷堀に流出する構造になっていますが，近年都市化が進み，汚水量や雨水流出量が増え，七郷堀に流れ出る下水の量や水質が問題となってきています。





浸透雨水ます

平成１９年度の予定

○七郷堀雨水幹線、雨水浸透桝設置等の整備を促進します。

事　業　効　果

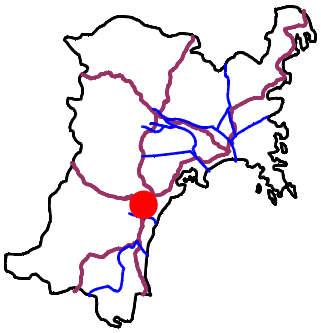
○合流式下水道緊急改善事業を実施し、汚濁負荷・夾雑物の削減を図り、東北地方の水環境保全に寄与します。

美しい東北の実現　**循環型社会の構築**

事業名	仙台市営西中田（にしなかだ）住宅ストック総合改善事業（補助：事業主体　仙台市）（宮城県仙台市）
事業着手：平成１６年度	完成・供用の目標年度：平成２１年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

秋田県



「事業の必要性」

仙台市は、コンパクトな市街地の形成を目標としており、鉄軌道を基軸としたまちづくりを推進しています。公的賃貸住宅においてもこの基本的方針により、中心部や鉄軌道沿線への整備を進めるとともに、市内に散在する市営住宅団地の再編も進めています。

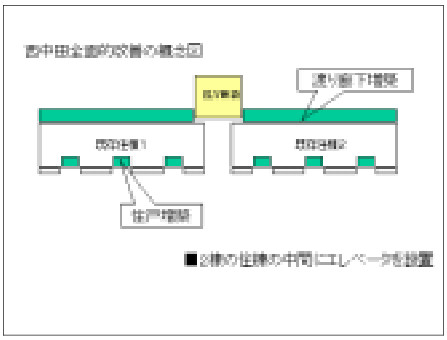
市営西中田住宅は、ＪＲ南仙台駅に近接する利便性の高い立地条件であることから、全面的改善により高齢者の単身・夫婦世帯など多様な世帯構成に的確に対応できる多様な間取りの公営住宅の供給を図ります。

「事業の概要」

西中田住宅団地内の全１３棟のうち、８棟について計画的に全面的改善事業を進めています。対象の８棟は、隣接する２棟を１ブロックとして中間にエレベータを設置し、各住戸へのアクセスは渡り廊下を設置することでバリアフリー化を図っています。また、既存ストックを有効に活用するという地球環境に配慮した事業計画です。



＜位置図＞





平成１９年度の予定

○平成21年度の完成を目指します。

事　業　効　果

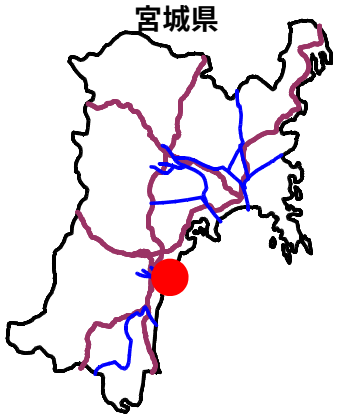
○既存ストックを有効活用し、コスト縮減を図ります。
○様々な間取りの市営住宅を供給することにより、多様な世帯構成に対応します。
○バリアフリー化、耐震化を促進し、安全安心な公営住宅を供給します。

魅力ある都市づくり

事業名	名取川水系直轄総合水系環境整備事業（広瀬川タウンモビリティ）（直轄） （宮城県仙台市）

事業着手：平成17年度	完成目標年度：平成21年度完成予定

事業の必要性・事業の概要



「事業の必要性」

河川利用の中心部に位置する広瀬橋・長町地区周辺の道路及び歩道では、バリアフリー整備が施されており、河川への接続も含めてバリアフリーのネットワークを広げるためのタウンモビリティ※構想が地元住民から要求されています。

「事業の概要」

本事業は、タウンモビリティが取り組まれている東北最大の市街地において、道路・まちのみならず広瀬川を含めたバリアフリーネットワークの拡充を図ることを目的に、親水性、利用環境向上のための施設整備を地域住民と一体となって進めるとともに、都市計画や道路事業との連携を図り『かわまちづくり』の推進を目指します。



平成19年度は、障がいを持つ方、高齢者でも気軽に水辺に近づき、水の流れを感じられるような施設整備を実施します。【低水護岸・親水スロープ】



【将来の整備目標】
・スロープのバリアフリー化
（勾配の緩和、通路の拡幅）
・階段の改善
（手摺の設置、勾配の緩和）
等





※【タウンモビリティとは】

高齢者や障がい者はもちろん、誰もが安心していつでも、どこへでも 出かけることができる「人にやさしいまちづくり」の実現に向けた取り組みです。

平成19年度の予定

○平成19年度は、低水護岸・親水スロープの整備を実施し事業の推進を目指します。

事　業　効　果

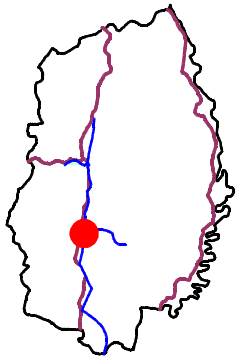
○バリアフリーによる施設整備を実施し親水性を高めることで、高齢者や障がい者でも水辺に近づくことができます。
○地域住民から整備のための意見を頂くなど一体となって整備を進めることで、川への関心を高めることができます。

魅力ある都市づくり

事業名	一般国道4号　花巻東（はなまきひがし）バイパス（直轄） （岩手県花巻市）
事業着手：昭和62年度	完成・供用の目標年度：平成19年度全線暫定供用予定

事業の必要性・事業の概要

岩手県



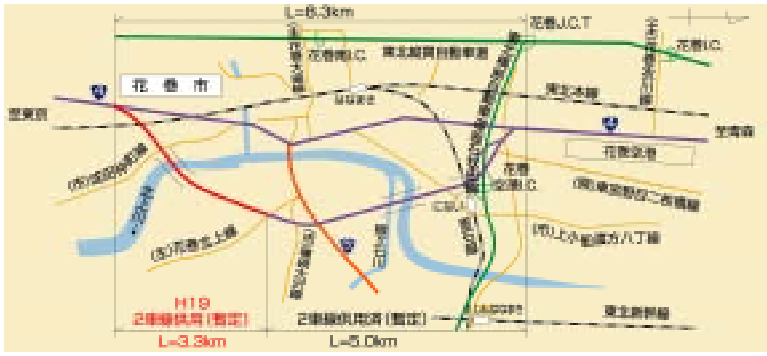
「事業の必要性」

花巻市を縦断する現国道4号は花巻市の市街地に位置し、近年の沿道開発や交通量の増加により速度低下や慢性的な交通渋滞が発生しています。

「事業の概要」

花巻東バイパスは、花巻市街地の交通の円滑を図るとともに、東北横断道釜石・秋田線や花巻空港アクセス道との直結及び東北新幹線新花巻駅へのアクセス性の向上により高速体系の一翼を担うことを目的とした延長8．3kmのバイパス事業です。

花巻東バイパスは、平成18年度までに延長5．0kmを暫定2車線部分供用しており、平成19年度の全線供用を目指し、残り3．3kmについて事業展開中です。花巻東バイパスの全線供用により、花巻市街地の交通分散を図ります。



▲　位　置　図



▲花巻市内の混雑状況



▲花巻東バイパスを上空から望む



▲花巻空港付近を上空から望む

平成19年度の予定

○花巻市山の神（やまのかみ）～高木（たかぎ）間L=3.3kmにおいて、舗装工事等を実施し、全線暫定供用を図る予定です。

事　業　効　果

○現道の交通量がバイパスに転換し、交通混雑の緩和、沿道環境の改善が図られます。また花巻空港、東北（縦貫・横断）自動車道へのアクセス性が向上し、都市交通の円滑化が図られます。